

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	開館15周年記念事業 松竹大歌舞伎						
目的・内容	県民文化会館の開館15周年記念事業として、一流の歌舞伎役者による「歌舞伎公演」を開催することにより、古典芸能への関心を高め、更なる愛好者、鑑賞者人口の拡大を図る。						
開催日時	平成20年11月18日(火) 開演14:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料・参加費 (友の会)	特等席6,000円 (5,000円)	一等席5,000円 (4,000円)	二等席3,000円 (2,500円)	三等席2,000円 (1,500円)	foreigner 1,000円	大学生以下 (指定席) 1,000円	大学生以下 (当日指定) 800円
集客状況	入場者数	908名	設定席数	1,604席	集客率	56.6%	
事業費状況	予算額	収入	8,686,000円	支出	15,271,000円	収支比率	56.9%
	決算額	収入	4,139,500円	支出	8,511,446円	収支比率	49%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・大変おもしろかった。歌舞伎は堅苦しいものと思っていたが、間違いだった。今後も鑑賞したい。 ・役者の口上の絶妙の間合い等、迫力・躍動感があり楽しく満足した。 ・是非一度は観てみたいと思っていた歌舞伎。念願かないました。敷居が高く、もっと難しいものと思っていましたが、とても身近に感じられ、楽しませて頂きました。イヤホンガイドを借りたのも良かった。機会があればまた出かけたと思う。 ・Café SOURCEや宝月堂とのコラボはとても良いアイデアだったと思う。係の方の対応もていねいで良かった。 ・満席になっていると思ったが、後席に空席がありPRが足りないのか、文化度が低いのか、折角の公演であり残念です。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラボカフェからのお客様、日本海新聞でのコラム連載で関心を持ってくださったお客様というように今までと異なる客層の取り込みが少しながらできた。コラム連載により、敷居が高いと思われがちな歌舞伎を作品の内容からひきつけることができた。 ・歌舞伎公演にしては格安の料金設定を行い、特等席は完売となった。 ・カフェの設置と着物展示を行ったことにより、観劇に付加価値を付けることができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報等にも努めたはずなのだが、まず行ってみようというモチベーションに至らない。きっかけづくりをどうするか課題である。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に古典芸能への関心を持ってもらう手法が良く、新しい試みのカフェテリアなど、心とむ空気をつくりもお客さまからも好評だった。 ・カフェとの連携、着物展示、国際交流財団への働きかけなど、積極的に事業が推進されたと評価できる。 ・公演のクオリティは高く、記念事業としての華やかさも、意義のある事業だった。 ・古典芸能を多年層に拡大するにつき、良い糸口が発見、発信できた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎が敷居の高いものとして誤解されている。もっとくだけた内容の紹介の仕方は考えられないだろうか。 ・焦点を絞り込んだ集客対策、アピールも必要ではないか。若年層の集客については、より具体的な方策の検討が必要ではないかと思う。 ・「演目の選定」が重要である 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き古典芸能を財団の鑑賞事業の柱として継続実施していくものであるが、若者等の次世代の鑑賞者をどう取り込むか、今回のカフェでのPRのような色々な試みをしていくことが必要である。 ・プレ事業を開催するなど、減少傾向にある古典芸能の鑑賞者層の拡大に努めていく。 ・大学生、高校生などに働きかける取り込みを実施し、若年層の集客を目指していくことが必要である。 ・コラボカフェ、国際交流財団など新しい角度からのアプローチは、今後も重要であり引き続き行っていく。 						